

官報報告

宗

三十一廿

立案 大正十年一月廿五日
決裁 大正 年 月 日

宗秩寮總裁

宮内省

仙

大臣

次官

陸軍大将男森大谷喜久藏
特旨叙位一件

十八

一

一

大正十年一月廿五日
臺帳記入一月廿五日官報報告濟

宮内省

(九大)

191

宮内省

大正十年一月十一日

陸軍大將男爵大谷喜久藏

大官

大正

大正十年一月十一日

陸軍省



陸軍省



陸軍大將男爵大谷喜久藏
特旨叙位ノ件
右謹テ裁可ヲ仰ク

大正十年一月十一日

内閣總理大臣原敬



位第三號

起案 十年一月十日

裁可 十年一月廿三日
施行 年 月 日

年 月 日

内閣總理大臣

内閣書記官長

内閣書記官

内閣

陸軍大將正三位勲一等功級男爵大谷喜久藏、
別紙陸軍大臣奏請、通功績顯著ナル者
ニ付特旨叙位、件上奏相成然ルニシ

陸軍大將正三位勲一等功級男爵大谷喜久藏

内

閣

特旨ヲ以テ位一級被進

正三位勲一等功一級男爵大谷喜久藏

叙從二位

陸軍大臣男爵田中義一

陸軍大將正三位勳二等功一級男爵田中大谷喜久藏

右別紙履歷書之通明治十二年二月陸軍少尉任官以來
在職實三十四有餘年其間師團參謀長旅團長軍參
謀長教育總監部本部長師團長青島守備軍司
令官軍事參議官特命檢閱使等ノ要職ニ歷任シ
終始一貫克ク其ノ職責ヲ盡シ又前後三回ノ戰役ニ從軍シ
毎回各地ニ殊功ヲ樹テ殊ニ大正七年浦潮派遣軍司令官ト
シテ出征スルヤ聯合軍指揮ノ大任ヲ負ヒ内外ノ重望ヲ
双肩ニ擔ヒ画策機宜ニ適シテ克ク其ノ職責ヲ盡シ又
教育總監ニ補セラレ歐洲大戰役後ニ於ケル軍事教育ノ
大改革ニ任シ克ク其ノ基礎ヲ創定シタル等其ノ功績偉大
ナリ然ルニ今般年齡滿限ヲ以テ後備役被仰付候ニ
付此際特別ノ思召ヲ以テ位一級ヲ進メ從二位ニ叙セラレ

陸軍

度

謹テ奏ス

大正十年一月六日

陸軍大臣男爵田中義一



履歴書

陸軍大將正三位勳一等男大谷喜久藏

一 明治五年二月一日 陸軍少尉

一 同十三年三月二日 正八位

一 同十六年二月二十日 歩兵中尉

一 同 年四月九日 従七位

一 同十九年五月二十六日 歩兵大尉

一 同 年七月八日 正七位

一 同三十五年五月二十日 瑞六等

一 同 年十月一日 歩兵少佐

一 同 年十二月二十日 歩兵第八聯隊大隊長

一 同二十六年十月九日 第六師團參謀

自明治七年七月二十五日 至同十八年五月三十日 明治七八年戦役従軍

一 同十八年四月十六日 歩兵中佐

一 同 年十月十六日 旭大等功四級

一 同 年十月十五日 正六位

一 同十九年九月二十五日 第四師團参謀長

一 同 年十一月二十五日 瑞五等

一 同三十二年十月十一日 歩兵大佐

一 同 年同日同日 近衛師團参謀長

一 同 年十月三十日 従五位

一 同三十二年三月三日 教育總監部本部長

一 同三十二年十月三日 陸軍戸山學校校長

一 同三十二年六月二十日 陸軍少将

一 同 年同日同日 歩兵第三十四旅團長

陸軍

めくれず

裏面白紙

一同九年十一月一日 旭日桐花大綬章

一同 年同月同日 功 一 級

一同 年十二月十八日 男 爵

一同 年十二月十八日 後備 役

陸 軍

裏面白紙

位第 八 號

大谷大將特旨敍位ノ件通牒

大正十年一月六日

陸軍省人事局長行上常弔三郎

内閣書記官長高橋光威殿



別紙大谷大將特旨敍位進達相成候處右ノ今回
ノ轉役迄ノ功績ニ對スル敍位ハ本敍位ヲ以テ亦切リ將
来更ニ特別ノ功績無クハ重キテ敍位ノ難議
ヲ爲ササルコトニ内定セラレ候間此際特ニ敍位相成
候様取計相成度依命及通牒候也

位第七號

特旨敘位ノ件進達

大正十年一月六日

陸軍大臣男爵田中義一

内閣總理大臣原敬殿



陸軍大將男爵大谷喜久藏特旨敘位ノ件
右進達候也

陸軍

裏面白紙